

また、中学校の道徳科において、授業の準備に小学校教員も参加しました。児童生徒の成長に応じた指導方法について話し合った上で、中学校で授業を行い、小学校教員が参観しました。お互いの指導方法の良さ



【小学6年生の感想】  
中学校へ早く行きたく  
なった。来年も小学校  
の運動会を見たい。

小学校の運動会やその予行を中学校で行いました。児童生徒、教員の交流の機会を増やすとともに、中学校の環境に慣れることで児童の不安を軽減することをねらいとしました。準備や審判などの運営を中学校の生徒会と協働して行う中で、児童生徒はコミュニケーションを深めていきました。

●吉川中学校区(吉川中学校・吉川小学校)  
学校行事を中心に交流を行いました

を取り入れたり、つながりを意識したりしながら授業に活かしていくことが重要だと確認しました。

校長の想い

児童生徒や教員が学校行事に向けて、連携・協働しながら取り組んでいく過程で、関係性を築いていくことができます。学校行事を一緒にすることが最大の目的ではなく、その前後の児童生徒や教員同士の交流が大切であると考えています。今後も相互交流や出前授業を行い、児童生徒の成長に応じた指導方法を探求していきます。



吉川中学校  
藤井校長



吉川小学校  
長谷川校長

小・中学校教員の協働による  
カリキュラムづくり



小中一貫教育の推進

～実践推進校の着実な歩み～

問(市)学校再編室

児童生徒の交流

市では、変化の激しい未来を生き抜くために必要な「主体性」「協働性」「創造力」を育成するため、小中一貫教育を通して、それらの力を身に付けた「三木市のめざす15歳の実現に向けて取り組んでいます。そのためにも、小・中学校の指導の一貫性や温かな見守りの基盤となる「9年間のつながったカリキュラム」をはじめ、児童生徒や教員同士の積極的な交流活動が重要になります。

令和4年度より、別所地域と吉川地域の4つの小・中学校を「小中一貫教育実践推進校」に指定し、9年間の子どもの学びと育ちを支えるための実践的な取組に着手しています。小中一貫教育の良さや効果を市内の全学校と共有し、それぞれの地域に応じた取組を検討しながら、順次、小中一貫教育を根付かせていきます。

実践推進校では、カリキュラムづくりや交流活動のポイントについて、小中一貫教育アドバイザー(大学教員)による研修を行いました。今回は実践推進校の取組について紹介します。

小中一貫教育推進協議会を開催

施設一体型小中一貫校の設置に向け、「将来の学校像」や「子ども像」について多角的な視点で意見をいただくため、学識経験者や地域、保護者、学校の代表者で構成する小中一貫教育推進協議会を発足し、協議を進めています。

第3回の協議会では、施設一体型の先進校を訪問し、教育体制や施設の特徴を十分把握した上で議論を進めました。

これまでも、三木市の学校設置に関する将来的な方向性に加え、教育委員会が今後取組を進めていく上で、考慮すべき要件として「子ども人口の推移」「地域住民の学校に寄せる思い」「モデル校での検証の必要性」「未来における学校の担う役割の変化」などの意見が出されました。

協議会には、本年度中に委員からの意見を集約した「意見書」を作成し、教育委員会に提出していただく予定です。

なお、第1回からの協議会の様子については、市ホームページでご覧いただけます。



東条学園(加東市)を視察



協議会の様子



▲三木市の小中一貫教育  
についてはこちら

●別所中学校区(別所中学校・別所小学校)  
児童生徒の交流を行いました

小学校で学年を超えて交流を行う「なかよし班活動」に中学1年生が参加し、小学生に読み聞かせを行ったリ、リーダーとしてグループをまとめようと頑張っている小学6年生にアドバイスの言葉をかけたりしていました。

【中学1年生の感想】  
小学生と交流して、改めて、自分が中学生であることが自覚し直すことができた。



担当教員の想い

児童生徒の交流をすることで、小学校と中学校のつながりの大切さを再認識するとともに、中学生の自尊心や思いやりの心を育むことに繋がると感じています。

また、小学生にリーダーシップを発揮する中学1年生を見て、リーダーとして活躍する感覚を1年間眠らせてしまっている「もったいなささ」を感じました。今後も交流できる場を増やし、リーダーシップや自尊心を伸ばしてもらいたいと思っています。



別所中学校  
小西先生

【小学6年生の感想】  
中学校の学習内容や学校行事の様子が少し分かって、安心感が生まれた。

